大人になれなかった弟たちに……(4)

米倉 斉加年

次の表は、教科書本文の内容をまとめたものである。

戦争中の状況と「僕」の家族	疎開
「僕」の家族 父が戦争に行っていたため、「僕」は母、祖母、妹、弟とともに五人で暮らしていた。「僕」は小学校（国民学校）の四年生で、弟のヒロユキは生まれて間もなかった。 **戦争中の状況** 空襲が毎日のようにあり、毎晩、「僕」の家族は、ゆかの下に掘った防空壕でねていた。 戦争中は食料が十分になく、母は自分はあまり食べず、子供たちに食べさせていた。ヒロユキは配給のミルクが大切な食べ物だったが、「僕」は隠れてそのミルクを何度もぬすみ飲みしてしまった。	**親戚のいる田舎での出来事** 引っ越しの相談に行ったのに、うちに食べ物はないと言われた。母はそれを聞くなりくるりと後ろを向いて帰った。 ・そのときの母の顔…強い顔、悲しい悲しい顔、美しい顔 子供を必死で守ってくれる母の顔 **石釜への疎開** 疎開者には配給もなく、やはり食べ物が不足していた。

ヒロユキの死	「僕」の思い
ヒロユキの死 十日間ほどの入院ののち、弟は栄養失調で亡くなった。 （描写）暗い電気の下で 死んだ弟を母がおんぶし、「僕」たちは歩いて家に帰った。 （描写）白い乾いた一本道 空は高く高く青く澄んでいました。 **家に帰って** ヒロユキを棺に入れた。母は、大きくなっていたんだね、と言い、初めて泣いた。	**弟の死後** ヒロユキの死の九日後（八月六日）ヒロシマに、その三日後（八月九日）ナガサキに原子爆弾が落とされた。 一九四五年八月十五日に戦争は終わった。 **現在の「僕」の思い** ひもじかったことと、弟の死は一生忘れない。

題名のもつ意味

この作品の題名の「弟たち」という言葉には、「僕」の弟であるヒロユキ以外にも、大勢の子供たちが戦争で亡くなり、「大人になれなかった」ことへの思いが込められている。

確認テスト

教科書本文を読んで、問いに答えなさい。

(1) 本文の内容に合うものを選びなさい。

ア 戦争中は食べ物が不足していたので、母は自分ではあまり食べずに、「僕」たちに食べさせていた。
イ そのころは甘(あま)いものが全くなく、「僕」はヒロユキのミルクを一度だけぬすみ飲みしてしまった。
ウ 疎開先の石釜では疎開者にも十分な配給があり、以前よりも食べ物が手に入るようになった。

〔　　〕

(2) 次の各文の出来事を、本文の流れに沿って並べかえなさい。

ア 一九四五年八月十五日に戦争が終わった。
イ 田舎の親戚に引っ越しの相談に行った。
ウ 「僕」は弟のミルクをぬすみ飲みしてしまった。
エ 「僕」の家族は石釜に疎開することになった。

〔　　→　　→　　→　　〕

(3) この作品の題名は「弟たち」と複数形になっている。この複数形の表記に込められた思いとして最も適当なものを選びなさい。

ア 「ヒロユキ」が亡くなったことに対する「僕」の深い悲しみが込められている。
イ 「ヒロユキ」と「僕」を必死で守ろうとしてくれた母への思いが込められている。
ウ 「ヒロユキ」の他にも、戦争によって亡くなった子供が大勢いたことを暗示している。

〔　　〕